

ふたつかの峯

平成24年10月31日

11月 臨時号

落合小学校
学校だより

落合の子どもたちの学力は・・・

平成24年度「全国学力調査」結果より

昨年度は、東日本大震災により実施が見送られましたが、今年度は4月17日（火）に小学校6年生と中学校3年生を対象に、文部科学省が調査対象として抽出した学校において全国学力テストが実施されました。（広島市は全小学校実施）

結果は、8月8日（水）に公表されました。この結果と本校の結果を比較分析し、本校の実態を把握することができました。私たち教職員は、この結果を真摯に受け止め、指導を続けていきたいと思えます。

保護者の皆様や地域の皆様には本校の学力定着状況やこれからの教育につきまして、より一層のご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

『調査方法』

国語 A

国語 B

算数 A

算数 B

(A・・・基本問題 B・・・応用・活用問題)

理科

(理科は今年度から調査、A・Bを一体的に出題)

1. 国語

(1) 平均正答率

	国語 A	国語 B
本校 (%)	80.1	57.0
全国 (%)	81.6	55.6

(2) 達成状況と課題

- 正答率が全国に比べ、A問題はやや低いですがB問題はやや高くなっている。これまで努力事項として取り組んできた「考える力」や「表現する力」が付いてきたと考えられる。
- 領域別（話す・聞くこと、書くこと、読むこと、言語事項）にみると、「読むこと」は定着しているが、言語事項においてやや低くなっている。言語についての知識・理解・技能が十分身に付いていない。また、読書が好きでないという児童の割合が多く、日常的に文章に親しむ必要がある。
- 設問を詳しく見てみると、話を聞いたり資料を読んだりする際、目的や意図を十分に捉えきれない児童が多い。

2. 算数

(1) 平均正答率

	算数 A	算数 B
本校 (%)	70.7	58.0
全国 (%)	73.3	58.9

(2) 達成状況と課題

- A 問題・B 問題ともに全国より正答率が低い。特に、A 問題の正答率が低くなっている。基礎的な力（それぞれの学年で身に付けておかなければならない学習内容を活用する力）を定着させていく必要がある。
- 領域別（数と計算・量と測定・図形・数量関係）にみると、「数量関係」の正答率が低くなっている。小数や分数の計算や数のしくみについての理解が十分でない。
- 設問を詳しく見てみると、課題の意味を読み取り、筋道を立てて論理的に考えていく力はまだまだ弱い。

3. 理科

(1) 平均正答率

	理科
本校 (%)	62.3
全国 (%)	60.9

(2) 達成状況と課題

- 正答率が全国を上回っている。
- 領域別（物質・エネルギー・生命・地球）にみると、全ての領域で全国平均を上回っている。しかしながら、記述式による正答率はやや低い。
- 設問を詳しく見てみると、データをもとに思考し分析する力や実験結果から新しい方法を構想する力は弱い。

4. 児童質問紙による結果から

本校児童は、学校のきまりや友達との約束を守ろうとすることや、自分や友達を大切にしようとする気持ちは強い。この規範意識や自尊感情は、学校生活のみならず社会生活を支えていく大きな力になっていくと考えられる。

反対にテレビを見たりゲームをしたりする時間が長いこと、それに伴い勉強時間や読書の時間が短いという課題がある。テレビ視聴やゲームをする時間を家族で話し合い、徐々に減らしていくことで家庭学習をより充実させていく必要がある。

5. 学力向上に向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

- ①漢字・音読・読書・計算などを繰り返し、基礎・基本の定着を図る。（学校・家庭で）
- ②学習の基盤となる「聴く」ことを徹底させていく。
- ③授業の中に考える場を設定し、児童が自分なりの考えを持てるよう工夫していく。

落合の子どもたちの学力は

今年も、6月12日(火)に県内小学5年生と中学2年生の全員を対象に、一斉に「基礎・基本定着状況調査」が実施されました。これは、国語と算数についての基礎・基本となる学力の定着状況を調べ、それぞれの学校の課題を明らかにしようとするものです。

対象は5年生ですが、学年を特定した見方をするのではなく、本校全体の学力の傾向を示す資料の一つであると考えられています。過度に数値にとらわれることなく、普段の学校の状況と照らし合わせながら今回の結果を分析することに意味があります。今回の結果を十分に分析し、私たち教職員が、一丸となって、さらに、家庭、地域の協力を得ながら子どもたちの学力向上、生きる力の育成に当たっていきたいと考えています。

つきましては本校の定着状況の実態や意識等について、皆様の一層のご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

『 調査内容 』

国語科・・・2～4年生の内容「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」

算数科・・・2～4年生の内容「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」

生活と学習に関する意識調査・・・家庭や地域での過ごし方についての設問

1 国語

【基本的な漢字や語句を理解し、文章を正しくとらえる力を身に付け、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする力や論理的に書いたり読んだりする力を身に付ける。】

(1) 通過率

市 平均 74.1%

学校平均 74.0%

(2) 達成状況

① 領域別にみると、「読むこと」80.9%は、かなり定着している。「書くこと」60.2%は、通過率としては高いとはいえないが、広島市の通過率（「書くこと」56.4%）と比べるとやや高くなっている。「聞くこと」70.7%、「言語事項」75.0%は、おおむね定着しているといえるが、広島市の通過率（「聞くこと」77.7% 「言語事項」78.3%）との比較でみるとやや低いので課題としたい。

② 「場面の移り変わりや情景の想像」「適切な語の選択」「適切な接続詞の選択」では、90%を超えている。

(3) 今後の重点課題

- ① 話の要点を確実に聞き取ること。
- ② 主体的な言語活動をすること。
- ③ 理由や根拠をあげて自分の考えを説明したり、文章表現したりすること。

(4) 方法

- ① 聞いた内容をメモしたり、聞いた内容から自分の考えを持ったりできるように、国語科だけでなく教科全般において聞く活動を多く取り入れる。
- ② 漢字などの定着を図る学習をするとき、目標を設定させるなどの指導の工夫を行う。
- ③ ローマ字の定着のために、パソコン操作の際にはローマ字入力をさせるなど、ローマ字にふれる機会を多く持つ。
- ④ 互いの考えを交流する場（ペア学習やグループ学習）を設定し、友だちの考えと比べながら自分の考えを深められるようにする。
- ⑤ あらゆる言語活動の基となる読書活動を推進していく。

2 算数

【数量や図形などの基礎的な知識・技能を身に付け数学的な見方や考え方、論理的な思考ができるようになり、それらの知識、技能、見方や考え方を様々な場面で生かそうとする力をつける。】

(1) 通過率

市 平均 72.9%
学校平均 71.1%

(2) 達成状況

- ① 領域別にみると、「数と計算」81.4%は、かなり定着している。
- ② 「量と測定」69.5%、「数量関係」71.3%は、おおむね定着しているものの、「図形」50.3%においては通過率としても広島市の通過率（58.7%）との比較でも低くなっているので課題としたい。

(3) 今後の重点課題

- ① 小数の意味や表し方を理解して活用すること。
- ② 図形の定義を理解して活用すること。
- ③ 時間・時計の仕組みを理解して活用すること。

(4) 方法

- ① 小数の仕組みに目を向け、理解を深めさせる。理解したことについては、プリントやドリルを用い、繰り返し継続的に指導していくことで習熟を図る。
- ② 図形学習の単元では、形の定義をしっかり押さえたうえで作業活動を多く取り入れて、図形の要素を具体的にとらえさせる。
- ③ 課題に対して、筋道を立てて自分の考えを構築させることを重視し、理由や根拠を明確にしながら新たな知識が導き出せるように指導していく。また、実際の生活場面で学習した内容が生かされ、問題解決ができるように、機会をとらえ、指導していく。

3 生活面調査結果より

- 基本的な生活習慣が身に付いている。
- 元気よくあいさつすることができる。
- 目標を持って努力している。
- △授業の復習や予習をしたり、自分で計画を立てて学習したりすることは十分でない。

4 総合的に見て

学校全体としては、国語科も算数科も、基礎学力はおおむね定着しているといえます。児童は素直で、学校や地域が大好きで、前向きにがんばっている様子がうかがえます。しかし、主体的に行動したり、学習したりすることについての課題が見えてきました。

学校としては、この結果を受けて、基礎基本の定着状況をさらにアップしていきたいと考えています。そのためには、

- ① 早寝、早起き、朝ご飯を食べる等の基本的な生活習慣を定着させる。
- ② TVの視聴やTVゲームの時間を少なくし、読書や学習の時間を増やす。
- ③ 自分の課題を見つけ、自ら進んで学習するよう促す。
など、ご家庭でのご協力もお願いします。